

「徳川文明の円熟認識」

みらい学会
芳賀会長 欧州人記録を紹介 静岡

家康公
顕彰400年

徳川時代の歴史的意義を研究、発信する「徳川みらい学会」の第6回講演会が10日、静岡市葵区の市民文化会館で開かれた。同会の会

長を務める芳賀徹県立美術館長が「西洋人の見た徳川日本―ケンペル、ツンベルク、オーロコック」と題して講演した。芳賀さんは「徳川時代の実情を知るには外国人の評価が不可欠」とし、日本に渡来した3人の欧州人が残した記録を紹介した。3人は来日時期が違っても、宗教戦争や人種差別などが多くあった自国と比べ平和で豊かな自然のある日本に感心していたと指摘。「他国と比較することで世界史の中に日本の姿を



西洋人から見た日本について講演する芳賀徹さん＝10日午後、静岡市葵区の市民文化会館

浮かび上がらせることができる」と述べた。幕末に来日した初代英国公使のオールコックについて「次第に徳川文明の円熟を認識するようになり、西欧列強の対日外交姿勢の批判に転じた」と説明し、「後の明治維新は、徳

川時代を生きた人々の遺産である」と強調した。